

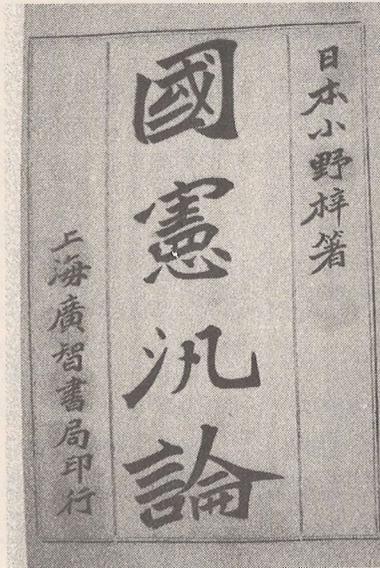
海外出張報告

北京の二大学と学術交流

東郷 佳朗

吉井蒼生夫・法学部教授を代表者とする本研究
所の共同研究グループ（研究課題名：日中韓にお
ける法の近代化過程の比較研究）は、2004年9月
6日から3泊4日の行程で中国・北京市を訪れた。
参加者は、吉井教授のほか、郷田正萬、山火正則、
川田昇、橘川俊忠の各教授、公文孝佳、東郷佳朗
の各専任講師、計7名（いずれも所属は法学部）
である。一行は、北京行政学院と中国人民大学法
学部を訪問し、学術交流と資料収集を行った。

北京行政学院は北京市の幹部養成を目的として
設立された単科大学で、法学、政治学、公共管理
等の9学科（教研部）を有する。神奈川大学の一
行との会見には、王江渝・常務副院長をはじめ、
崔岩・副院長、范文・国際協力交流部主任、余三
樂・同研究員らが出席し、両校からそれぞれの教



育・研究の現状が紹介されたあと、今後の学術交
流のあり方について意見交換がなされた。引き続
き、昼食をともにしながら大変なごやかな雰囲気
の中で交流を深め、両校の友好・協力関係の発展
を誓い合っ一行は北京行政学院を後にした。

中国人民大学は、人文・社会科学系では中国屈
指の総合大学であり、法学部も12の研究室（教研
室）、15の研究センター（研究中心）などを擁し、
国内最大規模を誇る。神大一行との会見には、朱
景文教授（法理学）、范愉教授（同）、姚輝教授（民
法）、丁相順副教授（法史学）ら7名が出席し、神
大側から研究の趣旨が説明されたあと、日中両国
の法の近代化過程、とりわけ中国法制の「現代化」
をめぐる活発な意見交換がなされた。また、丁
副教授のご協力を得て、小野梓『国憲汎論』の漢
訳本（陳鵬訳）を借り出し、複写することができ
た。同書は、東アジアにおける西洋法思想の継受

過程を明らかにするうえで重要な手がかりとなる
貴重な資料であるにもかかわらず、長らく所在が
不明だったものである。最近になって中国社会科
学院に所蔵されていることが判明し、今回の訪問
でようやく実物に接することが叶った。

訪問先の関係者の方々の並々ならぬご尽力のお
かげで、時間が限られていたにもかかわらず、大
変意義深い交流の機会を分かち合うことができた。
この場を借りて、あらためて感謝の意を表したい。
太謝謝了！

なお、昨年11月11日、本学で開催された国際
シンポジウム「司法制度改革に関する国際比較」
に、北京行政学院から崔副院長ら3名が報告者と
して招かれ、今回の訪問の成果が早くも目に見え
る形で示されたことを付け加えておきたい。

（法学部 専任講師）